

# 「構造特性係数DS】の 文章問題攻略

構造特性係数DSを過去問を用いて理解

## ・構造特性係数DSと架構の韌性(過去問を抜粋)

令和2年～平成22年で3回出題

構造特性係数 $D_s$ は、一般に、架構が韌性に富むほど小さくすることができる。

・令和1年 正しい選択肢として出題

構造特性係数 $D_s$ は、一般に、架構の減衰が小さいほど小さくすることができる。

・令和2年、平成24年 不適当な選択肢として出題

## ・設計で用いる構造特性係数DS(過去問を抜粋)

令和2年～平成22年で2回出題

純ラーメン構造の耐震設計において、ある階の必要とされる構造特性係数 $D_s$ は0.25であったが、他の階で構造特性係数 $D_s$ が0.3となる階があるので、全体の構造特性係数 $D_s$ を0.3として保有水平耐力の検討を行った。

・平成26年、平成23年 正しい選択肢として出題

## ・鉄骨造の構造特性係数DS(過去問を抜粋)

令和2年～平成22年で2回出題

「耐震計算ルート3」では、筋かいの有効細長比や柱及び梁の幅厚比等を考慮して構造特性係数 $D_s$ を算出する。

・平成30年、平成26年 正しい選択肢として出題

## ・筋かいと構造特性係数DS(過去問を抜粋)

令和2年～平成22年で1回出題

鉄骨造の建築物の必要保有水平耐力の検討に当たって、ある階の保有水平耐力に占める筋かい部分の水平耐力の割合が50%となる場合は、筋かいのない純ラーメンの場合に比べて、構造特性係数 $D_s$ を小さくすることができる。

・平成25年 不適当な選択肢として出題

## ・耐力壁と構造特性係数Ds（過去問を抜粋）

令和2年～平成22年で2回出題

ラーメン架構と耐力壁を併用した建築物の構造特性係数 $D_s$ を小さくするため、保有水平耐力に対する耐力壁の水平耐力の和の比率 $\beta_u$ を小さくした。

・平成30年 正しい選択肢として出題

剛節架構と耐力壁を併用した場合、設計変更により耐力壁量が増加し、保有水平耐力に対する耐力壁の水平耐力の和の比率が0.5から0.8となったが、「耐力壁」及び「柱及び梁」の部材群としての種別が変わらなかったので $D_s$ の数値を小さくした。

・平成23年 不適当な選択肢として出題

## ・RC造の構造特性係数 $D_s$ （過去問を抜粋）

令和2年～平成22年で2回出題

鉄筋コンクリート造建築物の必要保有水平耐力の計算において、一般に、柱・梁部材に曲げ破壊が生じる場合は、せん断破壊が生じる場合に比べて、構造特性係数 $D_s$ を大きくしなければならない。

・平成23年 不適当な選択肢として出題

全体崩壊形の崩壊機構となったので、崩壊機構形成時の応力を用いて、部材種別及び構造特性係数 $D_s$ 値の判定を行った。

・平成27年 正しい選択肢として出題